

〔倭名類聚抄^三嘔噎。唐韻云、嘔噎^上於越反、下乙劣反、楊氏逆氣也。

〔箋注倭名類聚抄^二按嘔噎、二字其義不同、下文詳證之、漢語抄嘔噎連文者誤、下總本無上於越之

上字、昌平本作下於越反、山田本作上於越反、下乙劣反、八字皆在注首、那波本同、按廣韻嘔於月切、

又乙劣切、於越於月、字異音同、蓋源君依唐韻舉乙劣、從漢語抄載於越也、則乙劣於越、並音嘔字、非

音噎字、傳寫者不知復出之故、或刪上字、或作下於越、或作下乙劣、皆誤、昌平本、曲直瀨本注噎作咽、

噎咽同、見上條、醫心方嘔同訓、新撰字鏡、獻歎亦同訓、佐久利又見源氏物語總角卷、^{○中}按廣韻嘔

逆氣也、又云、噎食塞、二字其義不同、說文亦云、嘔氣、悟也、噎飯室也、玉篇略同、則嘔可訓、佐久利、噎可

訓、無須、自是二事、唐韻亦必不嘔噎連文、疑傳寫者涉注所引漢語抄而衍噎字、遂增注首上字也、

〔增補下學集^{上二}嘔噎^{逆氣}也。

〔倭訓栞^{前編十}〕さくり 倭名抄に嘔噎をよめり、小綵の義成べし、嘔吐をたくりといふにむかへ

看べし、俗にしやくりといふ、しや反さ也、新撰字鏡に獻歎をよめり、泣餘の聲也、と注せり、源氏、狹

衣、蜻蛉日記などに、さくりもよ、となくといへり、撰集抄にしやくりもあへずなくといひ、今も

しやくりあげてなくともいふめり、

〔內科秘錄^七〕吃逆 嘔 嘔逆 呃逆 餉

吃逆ハ古ヨリ胃ノ虛冷ヨリ起ルト論ジタル通り、胃口ノ病ナリ、凡ソ諸病疲勞スルトキハ、吃逆

ヲ發スルモノナリ、就中疫及痢病ノ危篤ニ至ルトキハ、吃逆ノ出ルモノナリ、虛候ト爲ス、死期ニ

近クナリタリト知ルベシ、

〔病名彙解^二〕嘔噎^{オウキヤク} 乾嘔ノ甚シキヲイヘリ、嘔ノ條下考ベシ、

嘔逆^{オウキヤク} カラエヅキシコミ上ル也、嘔吐ノ類也、此ノゴトキノ類一病ニアラズ、嘔吐ノ中少ツ、ノ

異ニヨリテ詞ノカハル也、